

本書には下記の箇所にご迷惑をおかけ致します。大変ご迷惑をおかけ致しますことをお詫び申し上げますとともに、訂正の上ご使用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

ページ	箇所	誤	正
13	右段(6)文章	アクリル棒に近い側が負、遠い側が正に帯電して開く。金属棒を取り去った後は前者は(4)と同じでいったん閉じてまた開く。後者は(5)と同様(電荷は正)でさらに開く。	両方のはくは正に帯電して開く。金属棒を取り去るとアクリル棒に近いほうは負、遠いほうは正に帯電してはくが開く。あらためてアクリル棒を近づけると、前者はいったん閉じてまた開き、後者はさらに開く。
	右段(6)図	(2つのはく検電器を金属棒で橋渡ししている図)	(左側のはくの部分の「-」を「+」に変更、右側の頭の部分の「+」を削除します。)
18	左段 ◆導入例	(現在の文章に続けて、オシロスコープでの交流波形測定の注意・安全対策を追加)	なお、交流波形の観察では感電の危険性があるので、必ずオシロスコープのアース側とコンセントのアース(コールド)側をつなぐようにする(オシロスコープの筐体は端子のアース側と接続されているため、コンセントのホット側とオシロスコープのアース側をつないだ状態で筐体に触ると感電する)。コンセントのアース側は穴の大きい左側だが、念のため検電ドライバーで確認しておくとうい。または、変圧器を入れてコンセントとの直接的な接続を切り、交流波形の観察を行うとうい(スライダックでは直接的な接続は切れないので注意する)。
39	左段 1 行目	時間	時間
41	$fs \cdot v^2$ グラフ	(縦軸) 0.00, 0.01, …, 0.09	0.0, 0.1, …, 0.9
	$k \cdot m$ グラフ	(縦軸) 0.00, 0.05, 0.10, 0.15, 0.20	0.0, 0.5, 1.0, 1.5, 2.0
67	右段 2 行目	ピエゾセラミックス	ピエゾセラミックス
73	右段 36 行目	長いほうにずれる(赤方偏移)から、星雲から遠ざかりつつある	長いほうにずれる <u>こと</u> (赤方偏移)から、星雲が <u>地球</u> から遠ざかりつつある
76	右下図	<u>グレイデイド</u> ・インデックス型	<u>グレーデッド</u> ・インデックス型
77	右段 6 行目		
107	右段 21 行目 右段 23 行目	<u>218.6</u>	<u>219</u>
126~ 127	p.172 <u>1</u> , <u>2</u> 解答	(<u>1</u>)(2)の解答を変更)	(2) 求める比熱を c とすると、熱量の保存より、 $\{50\text{J/K} + 150\text{g} \times 4.2\text{J}/(\text{g} \cdot \text{K})\}(25.0 - 22.0)\text{K}$ $= 50\text{g} \times c \times (100 - 25.0)\text{K}$ $\therefore c = \frac{(50 + 150 \times 4.2)(25.0 - 22.0)}{50 \times (100 - 25.0)} \dots (*)$ $= 0.544\text{J}/(\text{g} \cdot \text{K})$ (答) <u>0.54J/(g·K)</u>
		(<u>2</u>)の解答を教科書の修正に合わせて変更)	熱量計と水の合計の熱容量が小さくなったので、熱平衡の温度が 25.0°C より高くなる。水をこぼしたことに気づかず、水の質量を 150g のままにして、測定された熱平衡の温度を用いて計算すると、問題 1 の(2)の解法の式(*)の分子は大きくなり、分母は小さくなる。したがって、この計算で求められた比熱は問題 1 で得られた値より大きくなる。(答) 大きい
131	p.211 <u>1</u>	((2)e 点の変位の答え) 0, 0, 0, 0	0, 0, 0, <u>0</u>
132	p.211 <u>3</u>	((4)の解答)	(教科書から削除したのに合わせて削除)
(CD)	収録データ	(探究活動ワークシートデータの一部が未収録でした。弊社 Web ページから「探究活動ワークシートデータ」のダウンロードをお願い致します。)	